慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	特集 : マルクス主義におけるエンゲルスの貢献 : 序
Sub Title	Engels' contribution to Marxism : preface
Author	大西, 広(Ōnishi, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2021
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.114, No.1 (2021. 4) ,p.1- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : マルクス主義におけるエンゲルスの貢献
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20210401-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」114 巻 1 号（2021 年 4 月）

特集：マルクス主義におけるエンゲルスの貢献

大西　広 *

2017 年の『資本論』第 1 巻初版刊行 150 周年，2018 年のマルクス生誕 200 周年記念コンファレンスに続き，エンゲルス生誕 200 周年を記念したミニ・コンファレンスを 2020 年 11 月 28 日に慶應義塾経済学会として開催することができた。本特集はその記録である。11 月 28 日はちょうどエンゲルスの誕生日であり，記念コンファレンスとしてはもっともふさわしい日となった。

コンファレンス自体はコロナ禍の下，オンラインを中心とする開催となり，予定していた 2 人の中国からの参加がキャンセルとなるなどのダメージもあったが，エンゲルスを研究する文献史家や哲学者，古代史研究者にも参加・報告いただくことでエンゲルスの幅広さを実感できるものとなった。

開催責任者となった私が特にエンゲルスに関心を持つようになったのは，理論上の師と仰ぐ故中村静治氏がエンゲルスを非常に重視されていたということがある。コンファレンスでは牧野広義氏が「エンゲルスはマルクス主義の基本線を的確に表現する役割を担った」と発言されたが，そのことが中村静治氏をしてエンゲルスを重視させたのだと改めて思った。この作業は時に「マルクス主義の通俗化」として批判的に論じられるが，たとえば「教科書」にもできないような理論が広まることはない。「教科書」はそれだけで全体をカバーできるものではないが，まずはそれによって大筋，基本を押さえ，その上で細部の厳密な認識に進む。学問とはそのようなものであると私は改めて考えた次第である。

ただし，このコンファレンスで感じたことのひとつは「エンゲルスの貢献」を論じることの特殊な困難さである。これには上で言及した「マルクス主義の基本線を的確に表現する」ということがなかなか学術上の貢献として認められないこと，そして，それを主たる課題としていた以上，「マルクスと異なるエンゲルスの理論」が存在せず，よってそれを見つけたとしても総体としてはやや些末な相違への言及となってしまうということが関係してくる。このコンファレンスで私が報告した「地代計算におけるエンゲルス方式のマルクスのそれとの違い」も大きな意味ではやや些末な問題でしかない。

＊　慶應義塾大学経済学部

実際，エンゲルスはその初期において「経済学をやらないか」とマルクスに提言したその一言だけをとっても人類史上の巨大な貢献であったとも言える。また，マルクスの主著たる『資本論』が彼の手によらなければ第 1 巻だけに終わってしまい，それでは「マルクス経済学」が成立しなかった。そして，そのような役割を「マルクス主義の発展」の各段階においてエンゲルスは常に担っていたと言える。私の考えでは，それは大きく言って次の 3 つの段階に分かれていたと思う。すなわち，

1)『ドイツ・イデオロギー』に代表される史的唯物論の基本を形成した段階。この前提にはヘーゲル左派として始まったマルクスの哲学上の諸成果と『国民経済学批判大綱』としてまとめられたエンゲルスの経済学研究があった。

2)『資本論』全 3 巻に集約された経済学研究での資本主義の本質解明のための作業。

3)『諸形態』,『古代社会ノート』,『起源』など歴史研究への「回帰」。

このどれにおいてもエンゲルスが決定的な役割を果たしていたことは言うまでもない。

本ミニ・コンファレンスでは文献史家，哲学者，古代史学研究者のご協力で幅広いテーマが扱われたため，討論のしにくさもあったが，主催者個人としてはどの論者からも学ぶことが多かった。牧野報告については上で述べたが，大村報告からは『ドイツ・イデオロギー』という史的唯物論的基礎がなければ経済学研究に進めなかったこと，そこでのエンゲルスの貢献がどういうものであったかは「マルクス・エンゲルス研究」にとってはコアたることであることを再認識した。また，岩永氏との討論の中では，国家の形成時期についての論点整理とともに，奴隷制の発生から国家形成までの長期の期間をいかなる奴隷制として理解すべきかという問題があることを認識した。3 氏に改めてお礼申し上げたい。

なお，本ミニ・コンファレンスの開催にあたり，慶應義塾経済学会に多大な支援をいただいた。記して感謝申し上げたい。

経済学会ミニ・コンファレンスの概要

1. タイトル 「マルクス主義におけるエンゲルスの貢献」
2. 日時　2020 年 11 月 28 日（土）13 : 00–17 : 30
3. 場所　三田キャンパス東館 4F オープンラボ
4. プログラム

第 1 部　司会　岩佐　茂（一橋大学名誉教授）

大村　泉（東北大学名誉教授）

「『ドイツ・イデオロギー』の成立とエンゲルス——オンライン版編集を踏まえて——」

牧野広義（阪南大学名誉教授）

「マルクス主義哲学におけるエンゲルスの貢献」

第２部　司会　北村洋基（慶應義塾大学名誉教授）

岩永省三（九州大学教授）

「日本古代史学におけるエンゲルス『起源』」

大西　広（慶應義塾大学教授）

「コブ・ダグラス型生産関数によるマルクス差額地代論の一般化
——いわゆる「エンゲルス方式」地代計算論とも関わって——」